



社会医療法人近森会

発行

2017年3月25日

びろっば

4
Vol.369

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者●近森正康 / 事務局●寺田文彦

近森会グループ

〈新人を迎えて〉

地域における役割を意識して働こう！

近森会グループ副理事長

近森病院院長 近森 正康



地域包括ケアシステム

4月1日に近森会グループは95名の新入職者を迎えました。

現在、厚生労働省は地域包括ケアシステムを推進しています。

「団塊の世代が75歳以上になる2025年を目途に要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきましょう」という考えからです。

機能分化

近森会グループは「選択と集中」を繰り返して変化してきました。近森病院は救命救急医療に特化した急性期病院として、近森リハビリテーション病

院は脳卒中・脊損対応の回復期リハビリテーションを、近森オルソリハビリテーション病院は整形疾患の回復期リハビリテーションを提供、総合心療センターは急性期精神疾患と精神障害者の在宅サポートを行っていくことで機能分化してきました。

今後も地域の中で各ステージがどのように役割を果たしていくか意識しながら医療を行っていくが必要になってきます。

近森会グループ7カ年計画による各病院の拡充

2010年から始まった近森会グループ7カ年計画は、2016年に完了しました。近森病院ではヘリポートを有する本館A棟と北館病棟、外来センターの新築や、BC棟の改築により建面積は1.5倍になり、救急部門や集中治療病棟の大幅なスペースの拡充が得られ

ました。急性期病床は338床から452床に増床して、これからの高度急性期医療に耐えられる病院に変貌しました。

近森リハビリテーション病院は江ノ口川南岸のボウルジャンボ跡地に新築移転し1080㎡の訓練室を備えた最先端の回復期リハビリテーション病院になり、近森オルソリハビリテーション病院も近森リハビリテーション病院跡地に改築移転しました。

オルソ病院跡地には近森病院附属看護学校が移設し、今年度3学年が揃う完成年度を迎えます。学校上層階には近森教育研修センターが開設され看護師特定行為研修が行われています。ホテルサンルート跡地には近森病院管理棟が新築され、管理部やスタッフのためのスペース、会議室などが完成しました。

2050年に向けて、地域医療を支える最高のハードは完成しました。職員の皆さんは存分にパフォーマンスを発揮していただけたらと思います。

いきいきと充実した日々を

かくいう自分も今年の1月から近森病院院長になったばかりのある意味新人です。みんなと一緒にいきいきと充実した毎日を送っていききたいと思っていますのでよろしくお願いします！

ちかもり まさやす





統合失調症の今と昔 ～今や新型うつ病より短期予後は良くなっている～

近森病院総合心療センター
副センター長 宮崎 洋一

私が精神科医になった30数年前、精神病院に入院している患者さんのほとんどは統合失調症（当時は精神分裂病と言われていました）で、精神病院に数十年いる患者さんも少なくありませんでした。10代～20代で発症するこの病気は、多くの場合は再発し徐々にレベルダウンすることも多く大変な病気でした。

統合失調症になる方はほとんど

言っていないほど穏やかで優しく真面目な方でした。病気のせいで高次認知機能が低下してもそういった人柄の良さはきちんと保たれており、慢性の統合失調症の患者さんとの付き合いはとても癒されるもので懐かしく思い出されます。

統合失調症の原因究明とか治療において、当時に比べて劇的なブレイクスルーは決してないのですが、1) 新しく出来た薬は副作用が随分少なくなったこと、2) 早期からリハビリし始めたこと、3) 作業所の増加、障害者雇

用制度の拡充などの就労支援が大幅に進歩したことから、統合失調症の患者さんがかなりの割合で仕事につくようになりました。重度の方は作業所、軽度の方は障害者雇用という形です。統合失調症になったら社会復帰は極めて困難であった昔と比べると感慨深いものがあります。

初発から3年くらいのスパンで見ると今の若者に多い、俗に言うところの新型うつ病より予後は良さそうに思われます。とは言え再発の問題、再発すると慢性化してレベルダウンしやすい問題が残っており、更に研究が進み統合失調症が完全に良くなる日が待たれます。 みやざき よういち

4月の歳時記

スイートピー

診療支援部医事課 濱田 華

スイートピーのスイートは香りの良さを、ピーは豆を意味します。花言葉は門出、別離、ほのかな喜び、優しい思い出で、門出、別離は花の形が今にも飛び立つ蝶のように見えることからつけられたそうです。春らしいパステル調の花色やマメ科ならではの上へ上へと伸びる習性から卒業や入学、歓迎会など新たな門出を明るく送り出すのにぴったりの花です。 はまだ はな



絵・広報

● 近森看護学校通信 16 ●

学校の未来展望

近森病院附属看護学校が開校され3年目を迎え、平成29年度で全学年が揃います。

学生をみるとSNSの影響が強く、特に、感性を育むことは看護を考える上での鍵となると思います。学生には人との関わりを通して、その人をありのままに受け止



め、その人が感じている思いや行動の意味を考えられる力をつけてほしいと思います。そのためには、患者さんとの関わりはもちろん、学生同士の関わりや自分と対峙していくことも必要であり、これから関わるたくさんの方々を通して成長できると信じています。

教職員一同、今後も看護教育に進進したいと思いますので、今後とも皆様のご支援よろしくお願いたします。 (教務主任 竹村 多加)

● 続報 ● 英国医学誌「LANCET」に掲載

近森病院呼吸器内科
部長 石田 正之

「ひろっぱ」3月号でご報告した、長崎大学との市中発症肺炎の共同研究（全国成人肺炎研究グループ）に関する成果、世界初の「23価肺炎球菌ワクチンの肺炎に対する効果の証明」が電子版につづき、書籍版にも掲載されましたので、ランセットHPよりご覧ください。

ランセットHPはこちら

THE LANCET Infectious Diseases
March 2017 Volume 17, Issue 3



THE LANCET
Infectious Diseases



Articles
Seroepidemiology of pneumococcal disease burden in children in India (page 315)
Articles
Is it 23-valent pneumococcal vaccine effective in healthy people? (page 315)
Articles
The efficacy of pneumococcal vaccine against invasive pneumococcal pneumonia in the elderly (page 315)

近森病院を退職するにあたって

近森病院

麻酔科部長兼手術部長 楠目 祥雄



2002年の春、留学中の私に近森病院への赴任の話が届き、大学に希望していた高知への帰還が叶いました。留学先から近森理事長にメールでご挨拶しましたが、そのお返事で早くも理事長の信念や熱意を強く感じました。

あれから15年、長いようで短い15年でした。当時はまだ医師16年目の私に、「麻酔科部長兼手術部長」という過大なポストを与えていただきました。それ以来ずっと、近森手術室の運営に携わってきました。年々増加する手術件数と手術リスクの増大に対して、しっかりとシステムを構築すると共に、一つひとつの症例に丁寧に対応しました。医療情勢の変化に沿った病院の大方針にも合わせてきましたし、近年の近森会大拡張計画に際しても中央部門のひとつとしての機能の充実に努めました。効率的でありながらも安全な運営をずっと心がけましたと

ころ、お蔭さまで近森手術室は大過なく順調に発展してきた次第です。

しかし、これは決して自分ひとりの力ではありません。東野手術室看護師長をはじめ、院内各職種の皆さん、麻酔応援の先生方、外部の関連企業の方々など、実に多くの方々にお助けいただき、また教えていただきました。ここで生まれた人との繋がりが、今や私の大きな財産となっています。皆さんにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

私は、これから残りの人生を別の環境で生きていこうと決意しました。近森で培ったあらゆるものが、新しい職場でも生きてくと確信しています。誠に微力ではありますが、これからも地域医療に貢献していくつもりです。

長い間有り難うございました。近森病院が今後も益々発展し、理事長を始め職員や関連される皆様全員がご健勝であられますように心よりお祈り申し上げます。 くすめ よしお



楠目先生ありがとうございました

近森病院前院長 近森 正幸

院長としてもっとも感謝していることは、優秀な麻酔医として心臓麻酔はもちろんのこと、重症の救急患者さんの麻酔も積極的に受けてくださり、高知県の救命救急医療に大きな貢献をしてくださったことです。

また、リスクの高い患者さんが多いにもかかわらず、麻酔のトラブルは皆無であり、麻酔科部長、手術部長としての責任を一身に背負って、手術室の運営にあたっていただきました。

楠目先生たいへんお疲れさまでした、そしてほんとうにありがとうございました。 ちかもり まさゆき

長年のご苦勞に感謝します

近森病院副院長 入江 博之

14年間にわたり手術室および麻酔科を整備し、総手術件数3656件、うち麻酔科管理手術2229件にまで伸ばして下さいました。

新しい現在の2階ワンフロア全てを占める手術室もデザインされました。趣味のゴルフ三昧を楽しみたいとのことで退職されることになりました。たいへん残念ですが今後の人生を楽しんで頂きたいと思います。ご苦勞様でした。

いりえ ひろゆき

14年間お疲れさまでした

楠目先生が近森病院に赴任されて、まず各科の手術枠を決めシステムチックにマネジメントを行うようにしたこと、旧本館の手術室増築、近森病院5カ年計画での新手術室の設計で建築関係への関わりが多かったことが印象に残っています。楠目先生はとて繊細で細やかな部分にまで配慮し、容易に妥協せず話し合いを重ねて、

近森病院手術室看護師長 東野 栄三

とても立派な手術室ができたと思います。

本業の麻酔も年間2,000件を超え、常勤医3名と非常勤医とではやりくりがとてたいへんだったと思います。新天地では少しのんびりして、趣味のゴルフを楽しんでください。たいへんお世話になりました。今後のご活躍をお祈りしています。 ひがしの えいぞう

お弁当拝見 51 トマトに込める思い



臨床栄養部
管理栄養士 泉 麻衣



「泉の弁当にはいつもトマトが入っちゃうね」ある日の先輩の一言。そう、私は毎日トマトを入れている。きっかけは母だ。中学・高校時代、母はどんなに忙しくても毎日弁当を持たせてくれた。そこには必ず、真っ

赤なトマトがちよこんと添えられていた。彩りを良くするため、と言っていたけれど、今日も頑張ってるね、という気持ちを込めていたと、後々教えてくれた。だから

私も、トマトを添えるようになった。今日も頑張るぞ、そして、いつもありがとう、という気持ちを込めて。

いずみ まい

リレー エッセイ

冬の休日

「やっぱり刺身がいいね。でも焼いたのも旨い」と家族から聞かせる。我が家ではこの時期になると必ずグレ（メジナ）が食卓にのぼる。休みを利用し磯釣りに出かけるからだ。釣りを始めておそらく20年は経つだろう。小学校の頃は近所の川で鮒を釣って楽しんでた。

海釣りといえば鱧の投げ釣り程度

近森リハビリテーション病院6階東病棟
介護福祉士 山崎 卓哉



しか知らなかったが、妻と結婚する前に義父に誘われてやってきたのが須崎市久通の沖磯。ここで衝撃的な体験をしたのがグレだった。今までに味わったことのない強烈な引きで竿を手元から絞り込まれ一瞬で切られた。「何やこの引きは」とキョトンとなっていた時、横の釣り座で義父が「これよ」と笑いながら簡単に釣り上げていた。

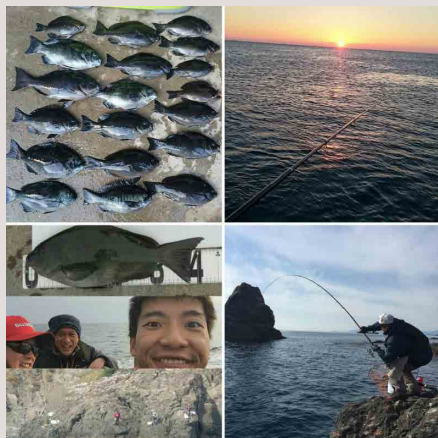
その姿を見て悔しい、負けてたまるか！と闘争心に火が付き、自分なりの撒き餌ワークやラインの操作、針の大きさなどを考え、初めて釣り上げたのがこの日のラスト1投。グレの魚体にブルーの目。サイズは35cmと小ぶりだったがそのサイズ以

上の感動を手に入れた。今では11月から4月まで毎月1回は磯の上に立っている。

毎回の釣行で本命が釣れないこともありポーズなこともしばしば……。そんなときは釣りから帰ると子供にクーラーBOXを真っ先に開けられ「魚は？」の第一声に疲れを癒してもらっている。

現在の目標は大会で上位入賞なのだが素人が入賞できるわけもなく妻にはあきらめられている。やっぱり趣味程度でやる方が家計には優しいよ。うだ（笑）。

やまさき たくや



オープンホスピタル

待ちゆきね！

CHIKAMORI HEALTH CARE GROUP

CHIKAMORI OPEN HOSPITAL 平成29年度

13:30~16:00

⑤ ⑥

※要予約 お申込み・お問い合わせは 088-822-5231 へ（看護部長室）

第20回公開県民講座

高齢者にやさしい医療

脳梗塞 - 血栓を取り除くカテーテル治療
心大動脈狭窄症 - 切らずに治す最新治療
肺炎 - 健康に元気で生き残るために
胸部大動脈瘤 - 破れる前に血管を補強！
末梢血管 - いっまでも健康に歩けるために

日時 4月22日(土) 14時~16時 会場 高知市文化プラザ かるぼーと大ホール

4/22(土) 14:00~16:00 13:30開場 かるぼーと大ホール ※お申込み不要

本館受付前水槽 僕らはみんな生きている 6

セルフィンプレコ

写真は背びれがたたまれているが立つと舟の帆(セル)のような背びれ(フィン)になるナマズ(プレコ)が読んで字の如き名前の由来。苔を食べてくれると思われているがそれも若い内だけ。成長すると30cm以上になり、雑食性で食欲旺盛だがその分糞の量も尋常ではない。プレコは夜になると活発に泳ぎ回り、セルフィンは昼間でも積極的に餌をあさる(いつ寝るのだろう!)。(編集室)



安心して自宅復帰できる支援を目指して

近森リハビリテーション病院
3階病棟東看護師長 梅木 まき

近森リハビリテーション病院は主に脳卒中の回復期リハビリテーション病院です。

私たち看護部は、「患者さんが安心して地域で生活できるように、急性期から在宅へつなげる看護を提供する」をモットーに、食事や清潔、排泄などの自立に向けた看護を提供しています。

今年度は「個性・根拠のある排泄ケアの実践」を目標に取り組みました。排泄ケアは在宅復帰のキーポイントとなる事が多く、患者さんやご家族から「在宅復帰する為には排泄が自立してほしい」という声が聞かれます。しか

し、なかには排泄介助が必要になる方もおられ、ご家族に介護指導が必要となります。私達の病棟では、ご家族が家庭で、介護が安心して行えることを支援するため、「家族へのケアと介護指導を徹底しよう」と目標を定め、主任、リーダーを中心にスタッフと介護指導について話合う機会を持っています。

個性のある排泄ケアを提供するため、患者さんやご家族と十分にコミュニケーションを取り、生活背景を考慮し、意向に沿った介護方法の提案をしています。介護指導の内容を充実さ



せるために看護カンファレンスで検討し、知識や技術向上のための勉強会や指導手順の確認などを行うことで、スタッフに早めの介護指導を行う意識が高まってきました。

これからも患者さんやご家族の気持ちに寄り添いながら、よりよい介護指導が行えるように取り組んでいきます。

うめき まき

新人看護師「振り返りの会」

「新人看護師」 成長の支えとして

近森病院教育担当
副看護部長 森本 志保



「振り返りの会」は今年度最後の新人研修で、これまでの1年を振り返り、次年度への課題や同期との成長を確認する場です。この会の中で、看護師として大切にしたいこと、したい看護をまとめました。

新人の看護師からは、現場において多くの困難があっても先輩の助言や支援があり、乗り越えてきたことへの感謝の気持ちが語られていました。また、看護師長や先輩からの励ましのメッセージカードが贈られ、そうしたメッ



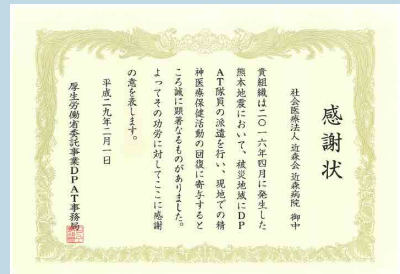
ッセージはとても温かく、これからの成長の支えになるものでした。

研修の最後には、この1年間の研修の振り返りのDVDを見て研修を終えました。今後も「病院全体で新人看護師を育てる」ことを基本とし、これまで以上に新人看護師の個々の成長を支援できるような関わりを、現場と協力して行っていききたいと思います。

もりもと しほ

近森病院

熊本地震被災地域でのDPAT隊員の精神医療保健活動において感謝状をいただきました。

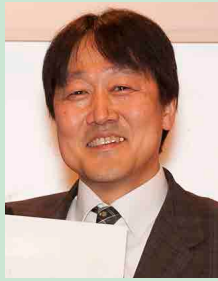


臨床研修修了を迎えて

プログラム責任者
近森病院外科部長 八木 健

「近森病院プログラム」で育った研修医10名と「高知大学とのたすきがけプログラム」で育った3名が今年も3月で臨床初期研修を修了します。2年前と比べてすっかりたくましくなった彼ら彼女らは、それぞれの道を再出発することになります。進む先の病院や診療科はそれぞれ異なりますが、近森病院で得たものを生かしてさらに成長し、また皆で集まる日が来ることを楽しみにしています。

やぎ けん



平成 27 年度初期研修医

高知大学たすきがけ 2 年修



優秀指導医賞 ● 中岡洋子循環器内科科長 / 三

幸せな人生を

伊藤 いづみ

大学時代、授業に興味を持てず試験勉強開始も遅く、医師失格かも…と心配でしたが、実際に患者さんを診るようになると、〇〇さん診断合っているかな、他の治療ないかな…と、気づいたら自然と遅くまで調べ事をする日々で、医師としてこのまま進んでいく覚悟ができました。患者さんがより幸せな人生を歩む手伝いができるよう、これからも成長していけたらと思います。

いとう いづみ

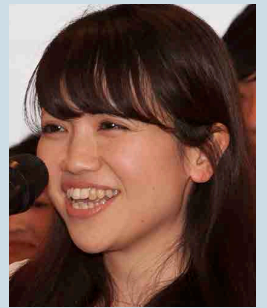


培った力を生かして

小笠原 真沙実

春の風が快い季節に、無事に研修を修了出来た事を大変嬉しく思います。2年前の春、右も左も分からない状態でしたが、先生方・周囲のスタッフの皆様を支えられて毎日貴重な経験をさせていただきました。近森病院を離れても、2年間で培った力を生かして高知の医療に貢献できるよう、日々精進していきたいと思っています。

おがさわら まさみ



日々勉強

ベスト研修医賞

古後 斗河

熊本から高知県に来て、早2年が経ちます。勉強はしてもしても全然足りないと日々感じましたが、勉強したことで患者さんの状態が改善したときは本当に嬉しく、何人も忘れられない患者さんができました。上級医の先生をはじめ他職種の方の存在が本当に心強かったです。初期研修終了後は放射線科に進み、患者さんとその周りに貢献していきたいと考えています。2年間、本当にあっという間でした。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

こご とご

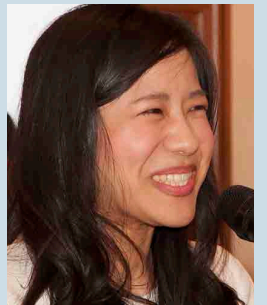


充実した研修

楠目 エマ

入職前の近森病院のイメージ通り、活気があって症例数もトップクラス、充実した研修でした。先生方はじめコメディカルも職員数も多く、沢山のいい出会いの中で研修をすることが出来ました。私は4月から他院勤務ですが、何らかの形で近森病院とつながってみたいです。そしてまたここで働くのが夢です。楽しかったです。お世話になりました。

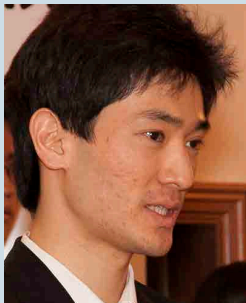
くすめ えま



臨床医の一員として

坂西 誠秀

私は研修で病歴・身体所見が診療の命綱であることを学びました。当直では熱心にご相談ののってくださる上級医とともに診断の難しい患者さんの病歴・身体所見を粘り強くとり診断に至ることがあり、一生の経験になりました。病理専攻医として常にこの2年間に学んだ臨床現場の臨場感を持って診断に携わって参りたいと思います。ありがとうございました。



ばんざい せいしゅう

初心者マークの 自分たちが

橋本 大輔

この規模の急性期病院で大きなアクシデントを起こさず、また患者-医師関係も大きなトラブル無く経験値を積んでこられたのは、まずは指導して下さった先生方のおかげですし、スタッフさんたちの多大なるご配慮があつてのことと思います。いつもありがとうございます。

はしもと だいすけ



三修了 高知大学たすきがけ1年修了

平成 28 年度臨床研修修了式



三木俊史救急科科长



ベスト研修医おめでとう!

近森を選んで良かった
前田 真佐

この研修の2年間、今思えば本当にあっという間でした。実は初期研修をどこでやるべきかかなり迷っていたのですが、2年間の研修を終えて近森病院を選んで本当に良かったと思います。一緒に2年間苦楽を共にした同期、たくさんの方を教えてくださいました先生方、コメディカルの方々、事務の方々、本当にありがとうございました。そしてこれからも宜しくお願い致します。

まえだ まさ



初心に戻る

久 雅行

早いもので、もう2年の初期研修を修了しようとしています。2年前の4月、最初にこの病院で働き始めた頃を思うと成長したなあ実感します。一緒に働くスタッフの方々とも顔なじみになり、以前よりも病院の居心地が良く感じるようになりました。来月から消化器内科の医師として、改めて初心に戻り精進したいと思います。

ひさ まさゆき



freedom & flexibility

松浦 洋史

近森病院での研修も気がつけば終わってしまいました。無事に研修を終えることができたのは、先生方、各スタッフの方々、秘書さん、後輩、同期の支えがあつてのことで、大変感謝しております。2年間で培った、近森のマークの意味でもある「freedom and flexibility」の心で、これからも柔軟性のある医師であるよう精進していきます。

まつうら ひろし



研修医修了を迎えて

松浦 拓也

初期研修の2年間はあっという間でしたが、近森病院は上級医の先生は指導熱心で、メディカルスタッフの方のレベルも高く、様々な方に指導いただきながら成長できた研修だったと思います。4月からは近森病院を離れることとなりますが、近森病院で学ばせていただいた経験を糧に精進していきたいと思っています。2年間ありがとうございました。

まつうら たくや



有意義な日々

高崎 元樹

高知大学とのたすきがけで今年一年間研修をさせていただきました。大学病院では救急、外来の経験が乏しく不安で一杯でしたが、実際に働き出してみると優しい上級医、同僚、頼りになるコメディカルの皆様のおかげで有意義な日々を過ごすことが出来ました。近森を離れますが、高知の医療人の一員として努力したいと思います。

たかさき もとき



謙虚な姿勢で

竹森 大悟

医師としてはもちろん、社会人としてもまだまだ未熟だと痛感した1年間でした。医学的な知識だけでなく責任感や言葉づかいの重要性を、患者さん・コメディカルの方々・指導医の先生方からたくさん学ばせて頂きました。来年は高知大学病院での研修となりますが、謙虚な姿勢を忘れず、近森病院で学んだことを活かせるよう頑張りたいと思います。

たけもり だいご



感謝の気持ち

西村 拓哉

早いもので近森病院での研修が終わりを迎えました。上級医の先生、コメディカルの方々、患者さんから学び、成長させて頂いた1年でした。ここで学んだことを忘れず、これから少しずつかもしれませんが恩返ししたいと思います。4月からは高知大学での研修となりますが、近森病院で学んだことを生かし今後の医師生活を過ごしていきます。

にしむら たくや





私の趣味

お菓子作り

株式会社シーメックSPD 土居 嘉子

趣味はお菓子作りです。幼い頃、学校から帰ると母が部屋中を甘い匂いでいっぱいにしてお菓子を作って待っていてくれました。私も家族も母の作るお菓子が大好きでした。

そのうち私も一緒に作るようになり、それからずっと楽しみの一つとして続いています。オープンで焼成していく間のあの甘い匂い、どんどん膨らんで美味しそうになっていくワクワク感、焼き上がりを待つ時間が私はとても好きなのです。お菓子作りは私にとってとても楽しい時間

であり、ストレス発散の時間であり、家族団欒の為の大切な時間です。

家族の誕生日や記念日、何か特別な日には手作りのケーキを焼きます。ケーキに気持ちをめいっぱい込めて…。母から教えてもらったお菓子作りの楽しさを私も娘に伝えていけたらと、お休みの日には子供たちと一緒に作ったりもしています。職場のみんなに食べてもらって「美味しい～」と言ってもらえるのも楽しみの一つです。

自分のためにも、家族のためにも、お菓子作りをこれからも楽しみながら大切に続けていきたいです。

どい かこ



ワイン講座 ● 51

ぶどう品種を知り、個性を探る
黒ぶどう その29

ポルトガル篇 マデイラワイン

ポルトガルの南西、モロッコ沖650Kmに浮かぶマデイラ島で造られています。辛口から甘口まで種類があり、甘口の場合はポルト酒と同じように発酵途中でブランデーを添加し発酵を停止させた酒精強化ワインです。

貴腐ワインには世界三大貴腐ワインがあるように、酒精強化ワインにも世界三大酒精強化ワインがあります。一つはスペインのシェリー、ポルトガルのポルト、そしてマデイラです。

マデイラの製法は極めて独自のものです、ブランデーの添加度後、清澄化が

済んだワインはエストウファと呼ばれる部屋で徐々に温度を上げ50～60度位で3～4カ月（或いはそれ以上）加熱による風味付けが行われます。

酸化のために茶褐色に変化、独特の風味を持ち、アペリティフや料理用に使われます。加熱による風見付けは、かつて船でマデイラ島の普通のワインを本国に運ぶ途中に大西洋上で船倉の温度が上がってしまっただけで積まれていたワインが酸化してしまったのが始まりであろうと言われています。

日本では飲用としてでなく、お料理のソースに使用されているものが多いため認知度は非常に低いです。次回よりバラエティに飛んだ味わいのマデイラワインをご紹介します。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

ハッスル研修医

高知への恩返し



初期研修医 溝渕周平

初期研修医1年目の溝渕周平です。中高はソフトボール、大学時代はバドミントンなどの部活をしてきました。体を動かすのが好きですが、最近ではめっきり運動不足でそろそろジョギングでも始めようかという今日この頃です。

近森病院での研修生活も早1年が経とうとしています。内科のローテーションも一通り終わりましたが、まだまだ慣れないことも多く、せわしく過ごす日々が続いております。

私は高知県生まれ、東京、兵庫、香川と転々とした後、高知に帰ってきました。高知大学で医学について6年間学び、生まれ育ててもらった高知に恩返しをしたい、好きな高知で働きたいという気持ちが強く、研修先として近森病院を選ばせていただきました。

今後も高知県の医療を支え、自分の医療を地域に還元できるように邁進していきたいと考えております。

みぞぶち しゅうへい

優良な生産者は、糖分の多い高品質の原料葡萄のみを厳選しエストウファによる伝統的な加熱方式を用いてマデイラワイン独特の風味を生み出すことに努めています。

酒精強化はエストウファの前に行われ、3～6ヶ月のそれを経て、さらに最低6カ月間静置された後、再びアルコール度数が18～19度になるように調整される。高級品は大きな倉庫の屋根の下にCANTEIRO（石室）と呼ばれる暖かい貯蔵場所を作ってゆっくり加熱熟成が行われます。

樽熟成はフレンチオークのみを使用。3年で出荷される製品は、クーバという25,000リットル入りの大樽で、5～10年のものは450リットルの樽で熟成する。熟成期間中は、年に一度、一つの樽から同質の古い樽へと樽を変えている。

AOtraum Fellowship (外傷に興味を持っている外科医のための留学研修制度)

ポーランドから
研修に来ました！Bartłomiej Bednarek
(バルテック)

私は、ポーランドから飛行機を3回乗り換え（東京では、成田から羽田まで空港も一度乗り換え）30時間かけて、やっと高知へやってきました。妻や飼犬と離れ、地球の反対側にひとり、最初は辛かったです。初日の朝、私は衣笠 Dr. と素晴らしい仲間たちに出会いました。整形外科チームに歓迎され、気にかけてくれる人たちがたくさんいました。アットホームな雰囲気でもとても居心地がよく、心のこもったおもてなしを受けました。

4週間の滞在中、多くの外傷手術を見ることができました。そして、その手技に驚かされました。私は、日本の整形外科医が軟部組織や骨をどれだけ大事に取り扱っているのか、賞賛したいと思います。一つ一つの動作全てが計算しつくされていて、どんな患者さんも安心できるように、細心の注意が払われていました。

滞在中、高知のいろいろな観光地も訪れました。高知城の天守閣から市内を一望したり、五台山にあるレストランでラーメンを食べたり、桂浜で遊んだり…また、路面電車であちこちを探索しました。牧野植物園も素晴らしかったです。今回、日本料理を味わう機会が何度かあり、美味しい魚がたくさんありすぎて衝撃でした。ただ残念だったことは、温暖な高知でも雪が降るほど寒かったことです。

ここでの経験は本当に素晴らしく、これまでの経験の中でも、ベストなものとなりました。そして、これからの私の人生、キャリアを開拓していくう

えで糧となり得る、本当にたくさんの貴重な経験や思い出ができました。私と同じ志を持ち、懸命に頑張っている仲間たちと交流でき、より多面的な医療、患者ケアについて見出すことができました。4週間にわたり、近森病院の整形外科チームの一員になる機会を私に与えてくれて、心から感謝しています。

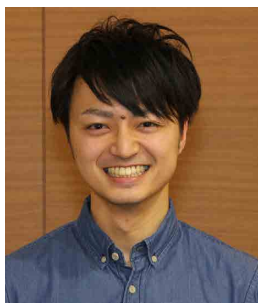
いつかまた高知に戻って、それが世界のどこかで、皆さんと会えることを願って…。

【原文（英語）を翻訳しています】

▶株式会社オーネットマーケティング部長
グロービス経営大学院客員准教授 西口敦先生

コーチフェスを終えて

近森病院循環器内科 西村 祐希



春風が心地よいこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は1年間「高知県の医療を良くする」を目標に立ち上げられた研修医の団体『コーチレジ』の第6代目代表を務めさせていただきました。そのコーチレジの活動の一環として、2月19日に近森病院にてコー

チフェスを行いました。コーチフェスは高知県の医療を盛り上げる取り組みとして2012年から行われています。

例年、医療界で有名な先生方を招いていましたが、今年は方向性を変え、女医さん向けに恋愛講座を行っている西口敦講師をお招きしました。その他には医学生向けの講座等も行い、研修医を中心に多くの方々に参加していた



だき、盛況の中無事終わることができました。

ありがとうございました！まだまだ盛り上がる高知県の医療と一緒に支えていきましょう！。

にしむら ゆうき



ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

**近森会
保育室** **そると**

イチゴ狩りに行ってきました。



高知八幡宮の鳥居奉納

大鳥居竣工奉告祭に参加してきました。



人の動き 敬称略

おめでとう

2017年2月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	17,761 人
新入院患者数	916 人
退院患者数	936 人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	15.29 日
地域医療支援病院紹介率	62.22 %
地域医療支援病院逆紹介率	145.93 %
救急車搬入件数	547 件
うち入院件数	281 件
手術件数	421 件
うち手術室実施	282 件
うち全身麻酔件数	168 件

● **2017年1月 県外出張件数** ●
件数 46 件 延べ人数 73 人

編集室通信

4月は色鮮やかな春の花が咲き揃い、忙しい毎日でも春の訪れを感じます。年齢を重ねるごとに花の持つ「癒しの力」を感じるようになりました。花には不思議な効果があって、落ち込んでいる時にはリフレッシュ効果、ストレスを感じている時にはリラックス効果があるといわれています。生活に少し花を取り入れ、新年度をスタートさせたいと思います。
(美)

図書室便り 2017年2月受入分

- 《別冊・増刊号》
- 老年精神医学雑誌 Vol.28 増刊号 I あらためて認知症を考える Living Well with dementia / 斎藤正彦 (他編) 臨床精神医学 第45巻増刊号 (2016)
 - 改訂版 精神科・わたしの診療手順 / 「臨床精神医学」編集委員会 (編)

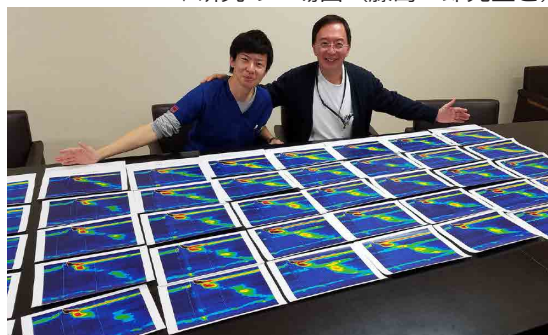
研修報告

嚥下障害に対する リハビリを学んで

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション科 青山 圭



▼研究の一場面（藤島一郎先生と）



この度2016年の7月から8ヶ月間、静岡県にある浜松市リハビリテーション病院（以下浜リハ）で研修をさせて頂きました。浜リハは聖隷グループの中でも、院長が藤島一郎先生という嚥下障害の分野で大変高名な先生がおられる病院で、嚥下障害に対するリハビリが全国的に有名です。

そうした嚥下障害の患者さんを中心として、脳血管障害や運動器疾患の回復期病棟の主治医として担当させて頂きました。また、診療と並行して臨床研究をする機会を与えて頂いて、今後の学会発表や論文作成など学術的な活動をしていくきっかけもできました。

夜は飲み会の機会も多く、浜松名物

のウナギや餃子をはじめ美味しい物を食べながら、お酒を飲み交わすことで、スタッフのみならずとのつながりや絆も深まりました。

浜リハで学んだことは嚥下障害に関するスキルや知識をはじめ、数多いのですが、普段の診療および研究に対する姿勢と考え方の影響が非常に大きかったと思います。

そして、困ったことがあればすぐに相談させてもらえる先生方との出会いが自分にとって本当にプラスとなったと感じており、今後もその縁とつながりを大切にしていきたいと思います。

嚥下のリハビリは、決して一人の力ではなく、チームアプローチで患者さんの「口から食べる」を、最大限にサ

ポートしていくものと教わりました。患者さんの飲み込みの障害に関して、困っていることなどありましたらぜひお気軽に相談していただければと思います。

あおやま けい

◆ ◆ 新駐車場オープン ◆ ◆

近森オルソリハビリテーション病院の北側の1階部分に、新しい駐車場P6（全て平面式で駐車台数は68台）が2017年4月3日（月）7：30よりオープンします。

なお、新駐車場P6オープンに伴い、下記の廿代橋北詰

とプチホテル高知の南の駐車場は閉鎖いたしました。

● ご注意ください ●

高さ1.5mまでの車はP-1近森病院駐車場をご利用下さい。ご利用の際は係員がご案内します。



P-1 営業 07：00～20：00
高さ **1.5m** まで

P-3 営業 07：00～22：00
高さ **2.3m** まで

P-5 営業 07：00～22：00
高さ **1.8m** まで

P-6 新オープン！
4月3日（月）～
営業 07：30～20：00
高さ **2.1m** まで



患者さんの安全と生命を守るために

近森病院災害対策委員会 委員長
近森病院救急救命センター 科長
井原 則之

2月18日土曜日、社会医療法人近森会としての災害対応訓練を開催しました。

近森会における「南海トラフ地震での最悪の想定」を想像すると、「津波浸水により病院1階部分が浸水」して「ライフライン（電気・水道・ガス）が寸断」され、「電話・インターネットなどの通信インフラが遮断」された状態と考えます。病院が浸水すると外来診療機能はストップし、院内にいる患者さんも病院職員も病院外に出ることは出来ませんし、勤務外で院外にいた病院職員が参集することもできなく

なる可能性があります。とくに夜間帯は職員数にも制限があり「限られた病院職員で数日間耐え忍び、院内の患者さんの安全と生命を守りつつ、ヘリなどでの救助を待つ」こととなります。

そのため、職種に関係なくリーダーを中心に活動できるチーム力と、多くの職員が非常時に衛星電話などで外部との連絡を保つ通信能力が必要です。これを前提として、職員94名が参加してのチーム立ち上げと役割分担および情報収集（災害対策小本部運営）訓練と、衛星電話の設置通信訓練を行



▲机上訓練▼衛星電話を使用する通信訓練



いました。

今回の訓練を行ってもまだ解決しなければいけない課題はあります。一つ一つの課題を解決しつつ「万が一の最悪の被災状況でも生命を守れる医療機関」を実現していきたいと思えます。

いはら のりゆき

高知龍馬マラソン2017の医療救護活動に参加

2017年2月19日

医療救護体制を目標に1分以内に心肺蘇生、 2～3分以内にAEDを作動



近森病院救急救命センター
科長 井原 則之

災害対応訓練の翌日である2月19日日曜日には「高知龍馬マラソン2017」が開催されました。

昨年の開催ではランナーの方が路上で2名心肺停止（ともに病院に搬送され治療の後に社会復帰されました）となっています。マラソン大会での心肺停止の発生率は3万～10万人に1名の確率といわれていますが、参加1万人前後の高知龍馬マラソンでも複数の心肺停止が起きました。他の地域では不幸にも生命を落としたランナーの方もいらっしゃいます。

高知龍馬マラソンにおいて、ランナーの方が今まで以上に安心できる医療救護体制を目標に、「どこでも1分以内に心肺蘇生を開始し、どこでも2

～3分以内にAEDを作動させられる」体制と「約2～3km間隔のこまめな医療救護所配置」が今回の大会から実行委員会により構築されました。

これを実現するためには多くの医療スタッフや医療系の学生さんのボランティア参加が必要であることは自明で、体制構築段階での最大の懸念でしたが、近森会職員16名と近森看護学校1年生40名を含む450名の方々（東は田野町から西は須崎市までご協力参加いただきました）の多大なご協力を得て、高知龍馬マラソン2017開催となりました。

幸い、疲労・脱水・低体温などの軽



症の患者さんのみの発生にとどまり、心肺停止の発生はありませんでした。

いはら のりゆき